



# 夢と希望にあふれる茨城を

～ 新年のごあいさつ～

茨 城 県 知 事  
茨城県統計協会 総裁

橋 本 昌

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、すがすがしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、北関東自動車道の友部インターまでの開通、常陸那珂港の外国船定期航路の開設、常磐新線つくば駅の工事着工、茨城県陶芸美術館の開館など、21世紀の発展と豊かさの実現に向けた明るい動きがございました。

いよいよ、21世紀の幕が開きました。私は、茨城県はこの21世紀に大きく飛躍するものと確信しております。

今世紀初頭には、北関東自動車道や首都圏中央連絡自動車道などの高速道路や、常磐新線、常陸那珂港などの重要港湾、そして、百里飛行場など、陸・海・空の広域交通ネットワークが確立してまいります。そして、IT革命に対応した情報交流空間の整備とあいまって、本県は、人・物・情報などの一大交流拠点として発展してまいります。

また、先端科学技術が集積しているつくばに加えて、近い将来、「東海・那珂・ひたちなか地区」に大強度陽子加速器が整備され、関連産業が集積してまいります。

このような恵まれた条件を活かして、新産業や中小企業の支援に努力しますとともに、農林水産業につきましても、新品種、新技術の普及や販売

促進に努めるなど、魅力と活力ある産業社会の形成を図り、みんなが生き生きと働ける県を創ってまいりたいと存じます。

こうした発展にあわせ、医療や福祉、教育や文化などの面でこれまで以上に施策の充実を図り、県民一人ひとりがゆとりや潤いを実感できる社会を築いてまいりたいと存じます。

私は、このような夢と希望にあふれる茨城を実現し、21世紀が「茨城の時代」となるよう、全力を傾けてまいり所存でございますが、そのためには、的確な現状把握と将来予測が不可欠であり、正確かつ迅速な統計情報など、統計の役割がますます重要になっております。「統計は利用から始まる」と言われるように、利活用の拡大を図ることが大切でありますので、インターネットなど各種のメディアを活用した真に役立つわかりやすい統計情報の提供に力を入れてまいります。

一方で、統計調査を取り巻く環境は、プライバシー意識の高揚などにより、年々厳しくなっております。県といたしましては、統計の有用性を広くアピールし、県民の皆様のご理解が得られるよう努めてまいりますので、本県統計調査への皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

おわりに、皆様方の一層のご健勝、ご活躍をお祈り申し上げまして、新年のあいさつといたします。